

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	保健福祉部	
	課名	長寿福祉課	
	係名	長寿支援係	
	記入者		電話(内線) 152

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	家族介護教室	(3) 事業の 優先度	B
(4) 総合計画での位置づけ		(6) 事業主体		市	
① 事業の区分	主要事業	(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質 一般事業費(ソフト事業)	
② 施策コード	14205 (総合計画掲載 ^ハ - ^ジ 62 ^ハ - ^ジ)	会計区分		特別会計	
基本目標(政策)	1ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)	財源区分		国県補助	
基本施策	1-4ゆとりをもって暮らせる高齢者福祉の充実(高齢者福祉)	予算科目		款 3 項 3 目 5	
施策	②地域包括ケアシステムの構築	予算書上の 事業名称		家族介護支援事業 (予算書 277 ^ハ - ^ジ に掲載)	
施策内容	5家族介護者などへの支援	(8) 事務分類		自治事務	
(5) 事業期間	開始 平成 18 年 4 月から 終了 年 月まで (力年)	根拠法令			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	家族を介護している又は介護介護の支援をしている方	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)	高齢者を介護している家族の身体的及び精神的負担軽減を図るとともに要介護高齢者の在宅生活の継続, 向上を図る。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族介護教室 介護の方法や介護予防, 介護者の健康づくりなどについての知識・技術の向上を学べる場を提供します。 ・家族介護者交流会(H27年度は予算措置無) 現在, 介護している方がつどい, 日ごろの介護のことを話したり, 情報交換などする場です。介護の経験も, 一緒にお話を聞きます。 ・ねたきり老人等介護用品購入助成 紙おむつ等の介護用品購入費を助成し, ねたきり老人等を介護している方の経済的な負担を軽減します。 	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)	平成18年度、介護保険制度の改正により地域支援事業の中で要介護被保険者を介護する家族の支援のための事業として位置づけられた。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	高齢者等を介護している家族等の身体的, 精神的及び経済的負担の軽減を図るとともに, 要介護高齢者の在宅生活の継続及び向上を図ることを目的とする本事業の重要性は増してきている。		

3. 事業コスト

行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)
事業内容	27 年度	28 年度	29 年度
事業費			30 年度
			31 年度
家族介護教室	336	660	
ねたきり老人等介護用品購入助成費	510	720	
合計	846	1,380	
財源			
国庫支出金 (千円)	330	538	
県支出金 (千円)	165	269	
地方債 (千円)			
その他特定財源 (千円)			
一般財源 (千円)	351	573	
合計 (千円)	846	1,380	
補助・起債制度名	地域支援事業交付金	地域支援事業交付金	

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名	家族介護教室, 家族介護者交流会	目標値	回	14, 9	14, 9	14, 9	14, 9
		実績(見込)値		11, 3			
指標名	ねたきり老人等介護用品購入助成費	目標値	人	12	12	12	12
		実績(見込)値		11			
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名	家族介護教室, 家族介護者交流会	目標値	人	180	200	200	200
		実績(見込)値		135			
		達成率		67.5 %	0.0 %		
指標名	ねたきり老人等介護用品購入助成費	目標値	人	12	12	12	12
		実績(見込)値		11			
		達成率		91.7 %	0.0 %		

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

【評価】介護の方法や介護者の健康づくり、要介護状態にならないための予防方法等について、知識・技術を習得する教室のほかに、家族介護者の孤立を防止するために、交流の場を提供することとした。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	B	どちらとも言えない	家族介護教室及び交流会については、即効性、可視化できる結果がでるものではない事から、判断することは困難である。
妥当性	実施主体の妥当性	B	どちらとも言えない	上記に同じ
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	上記に同じ
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	上記に同じ
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	上記に同じ
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	上記に同じ
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	上記に同じ

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

家族介護教室、交流会及びねたきり老人等介護用品購入助成については、事業内容の周知を積極的に行う。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

家族介護教室、交流会及びねたきり老人等介護用品購入助成については、事業内容の周知を積極的に行う。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	超高齢化社会であり、今後はますます必要性がある。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。